

敢えて窮地に立て (卒業式祝詞)

玉翠会会長 綾田 整治



只今、ご紹介いただきました玉翠会会長の綾田でございます。栄えある本日の式典にお招きをうけ、同窓会を代表して一言お祝いを申し上げます。皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さん、希望に満ちた皆さん方、わが玉翠会のメンバーとして、お迎えできますことは私共にとりまして大変うれしく、どうもありがとうございます。健康に留意され、本日の感謝を忘れることなく、ますます有為の人物として成長されよう切に願ひいたします。私共のあこがれです。

昭和六十三年八月八日
玉翠会 会長 綾田 整治

昭和59年度玉翠会代議員会 校舎改築へ熱意示す 併わせて同窓会館建設も

小春日和の昭和59年12月15日(土)午後時半、校長室は玉翠会理事の方でいっぱいになった。校舎改築に向けて、綾田会長の県に対する陳情の経過報告、ならびに京阪神や東京を初めとする同窓会議員の反応などについて話し合われた。ひきつづいて、午後二時から、会議室で代議員会が開かれ、約二百名の代議員の出陣があった。綾田会長から、前記の校舎改築に向けての経過報告を含めた挨拶があり、同窓会建設への強い協力を要請された。議員の中からはこれに呼応する熱い声が出た。田中清春校長から、校舎改築にされる玉翠会役員を

らびにPTA役員の方々の熱意に対する謝辞とともに、各地の玉翠会の盛況が報告された。この機会に、玉翠会(号、水入、高松三十一号)が第15回日展に入選された作品「繁栄する三蛇」が学校に寄贈された。玉翠会の長い経過の結晶である。この額は、図書に飾られて、現在、後援者として、朝日に立つというところとは、身をもって生き方を体得する機会である。そう考えれば、思い直した中にも新しい工夫、智慧が湧いてくる。つまり、機軸を転じて福となす。その中から人は、はじめて人生の深さを知り、世間の味を学びとることができるのである。ありまして、窮地に立つというところは、身をもって生き方を体得する機会である。そう考えれば、思い直した中にも新しい工夫、智慧が湧いてくる。つまり、機軸を転じて福となす。その中から人は、はじめて人生の深さを知り、世間の味を学びとることができるのである。

昭和60年度を迎えて

学校長 田中 清春

創立九十周年の記念式典を終えて、はや一年有余が経過しました。が、会員の皆様には、いよいよ御清様のことが喜び申し上げます。学校では、昨年度末、十五年ぶりに全通合同の卒業式を実施しました。一時間四十五分という長時間の式典となりましたが、玉翠会会長綾田整治様、同窓会議員の満洲博先生はじめ、同窓会役員の方々の多数の御臨席、御祝福のもと例年になく厳粛かつ感動的な式典を行うことができました。特に年齢や生活環境など、さまざまなハンデを抱え、卒業の途程に迷った手には定通代表の裏切られる答辞は、参列者の心を打つものでした。

昭和五十九年度には、また次のような同窓会行事が行われました。京阪神同窓会 会長 曾川 登彦子 月日 五月二十一日(月) 場所 阪神百貨店 グリーンルーム 幹事 代議員会(30人) 出席員数 二〇人 本部役員出席者 副会長 岡野美代子 学校教職員 三名 東京玉翠会 会長 平井 健吉 月日 六月二十一日(土) 場所 赤坂プリンスホテル 幹事 幹事 昭和五十九年度卒業生 出席員数 六〇名 本部役員出席者 副会長 岡野美代子 太田 英章 大社にサエ

昭和58年度玉翠会会計収支決算書

(昭和58年4月1日～昭和59年3月31日)

収入の部	
前年度繰越金	127,596
前年度制入金	1,348,100
定時制入金	8,000
通信制入金	67,000
利息	4,793
寄附金	10,000
雑収入	1,500
合 計	1,566,989

支出の部

印刷費	151,750
庶務費	18,460
卒業生記念品	126,800
転退職記念品	99,000
会議費	100,725
玉翠会職員給与	560,000
通信費	14,230
雑費	12,540
合 計	1,083,505
次年度へ繰越	483,484

昭和58年度玉翠会費収支決算書

(昭和58年4月1日～昭和59年3月31日)

収入の部	
前年度繰越金	9,908,981
前年度部会費	1,148,115
晩翠部会費	1,468,000
高部会費	2,069,000
定時制部会費	3,000
通信制部会費	10,000
旧職員	18,000
年度不詳金	15,500
90周年収益金	847,629
広報料	220,000
記念誌及びレコード売上金	494,570
晩翠大正15年より	5,350
名簿勘定	11,000
合 計	3,878,086

支出の部

支部総会お祝費	330,000
支部総会旅費	644,540
部活動助成金	1,200,000
90周年記念事業	3,933,187
郵送料	226,400
郵送料	311,060
玉翠会報印刷費	220,000
名簿関係支出	460,950
合 計	7,326,137
次年度へ繰越	12,770,094

山玉翠会 会長 藤井 康宏 月日 十一月十七日(土) 場所 岡山ブラザホテル 幹事 幹事 昭和五十九年度卒業生 出席員数 九〇名 本部役員出席者 副会長 岡野美代子 太田 英章 大社にサエ

毎年のことながら、各支部とも超一流の会場に、本部役員それぞれに私達教職員多数お招き頂き、本当に心温まる大歓迎を受け有難く感謝しております。ご参会の方々の元気を拝見し、差し出された名刺から、そして懐かしい顔もお話しの数々の中から同窓の各位が、国内の内外を問わずあらゆる分野で、国内外は円満な家庭経営にそれぞれ目覚まし、いかに活躍している様子を伺い、頼もしい限りです。今年もまた全・定・通各課程の総計五二八名の卒業生を全国各地に送り出しました。地元同窓会の方々にそしてまた各支部の方々に大変お世話になったと思いますが、何卒よろしく願ひいたします。ところで校舎改築については、御承知のとおり、綾田会長さんをお招き申し上げ、引き続き、力強い御支援、御指導、御援助をよろしくお願い申し上げます。玉翠会の皆様様の益々のご発展を心から祈り申し上げ、近況の報告とさせていただきます。

例年同様、(香川県立高校高等学)校施設設備の改築、改修について、の諸願陳情が採択され、次いで、昭和五十九年九月二十七日の県議会文教厚生委員会では、補正案を議員をはじめ多くの皆さんの熱心な御討議を頂きました。その過程で県として、新高松空港、本四連絡橋、四国横断自動車道、昭和六十四年の全国高校総体等多数の費用を要する重大な事業が山積する中であり、県教育委員会ならびに財政部局の御理解を得るに至り、その結果昭和五十九年度の高専学校施設整備調査研究事業費一〇〇万円引き、続いて、昭和六十年年度には、高松高校施設整備事業、体育館整備事業、施設設計等委託として、事業費一、〇〇〇万円が計上されました。またに嬉しいことである、本予算を契機として、できれば昭和六十年年度中に改修事業が着工され、六十一年度中に完成の運びになれば、よろこびに過ぎないものはありません。私達、高専に職を奉ずる者は、師弟一体となって努力することを誓ひ申し上げ、引き続き、力強い御支援、御指導、御援助をよろしくお願い申し上げます。玉翠会の皆様様の益々のご発展を心から祈り申し上げ、近況の報告とさせていただきます。

品質の黒ラベル



本社 大阪市東区南本町4丁目47番地

人生は時に非情だが……

定・通制総代
小井手マスキ

本校に入学し許可されました時に、高校に入学することが出来る喜びと共に、果てて卒業できるまでという一沫の安がぬぐい去れましたことは、それが今日、こうして卒業の日を迎えることが出来たことは私達のことによる喜びでございます。

私達は全制生徒と違い、職業を持ち家庭持ち、親として、更には専門学校の生徒として、誰もがいくつもの役割を果たさなければなりません。また、幾人かは病弱のため入学して行くことが出来ず、通信制に入学して来た者もあります。……美容師であるためなどして多少スリープの日数がおとずれ、微力な私達にも出張

が不足し、地位を取っ出なかつた者。夫の失業に遭い、やむなく働かなければならなくなつて行つた者。……中には、病氣が進んで休学しなければならなくなつた者もいました。……

このように、向学心燃えながも一人一人入り去りて行くのが私達の現実の姿でありました。また何となく学校を続けていた私達にも挫折感や、授業について行けぬという苦しみ、更に家族の病氣、職場との関係などで、苦しい立場にあります。社会全体が目まぐるしく変つて行く中で、職場においても技術革新の波は絶え間なくおとずれ、微力な私達にも出張

残念な、職業からの命令があり、そのような中での四年間、学生生活は、私達にとつて努力と忍耐の連続である。

私達にとつて勉強するということであり、環境の制約に耐えることであり、年齢のハンデを克服することであり、………

様々な困難に耐え、一つのことを成し得たこの精神力は、学力よりもっと素晴らしい財産であると思つてります。

私達にとって高校の入学は、新しい強い魂への出発であると共に、新しい人生への模索でもあります。そして今私達が様に思つてゐることは、卒業という一応成

果を鑑して、学ぶ心を待たせなければならない」といふことあります。それは、大学に通むことでなく、学徒社会の一人であることでなく、自らの生活を見つめ、豊かにするための勉学を意味しておりす。	今年の正月、教頭先生から高通信に次のような言葉を書けていただきました。それは、 「たが宿の春のしそき すみ売りの重荷に添えし 梅の枝」	仕事のうち、春を告げる梅の枝を忘れぬ気持、私は、それこそ自然の節とこのなりそこなのとの自然の発露だと受け取りました。毎日生活の苦しさに対すること、梅への愛着を生んだのだといえます。
奥深い山から炭焼きが炭を手負した町に光りて来ましたが、その炭灰につまみのはらぎびかけ、梅の一枝が添えてあつたという歌ですが、その梅の枝に、炭焼の優しい心がこめられてます。日々の苦しみが労働の下で、また日々炭灰を負って下りるという酷しい	という歌に込められた人間の気持のあり方についてでした。 奥深い山から炭焼きが炭を手負した町に光りて来ましたが、その炭灰につまみのはらぎびかけ、梅の一枝が添えてあつたという歌ですが、その梅の枝に、炭焼の優しい心がこめられてます。日々の苦しみが労働の下で、また日々炭灰を負って下りるという酷しい	人生は、ある意味では非常な世界ですが、私達が人間味、思ひのある世界へと転化して行くことを信じます。 人生はめぐりあいだと言われましても、私達はこの学校に學んで多く、その後の後も高く志を業として、そしてそこで学びを業として、私達の誇りとより励みとなるでしょう。
		三月八日の合同卒業式における 答辞(後援)

答辭の拔粹)

河上先生
「宵待草」を歌う

第六回 岡山玉翠会



館施設に母校の支援を訴えられた。これは、母校校舎の柱に組み込んで設計されていたのである。したがって、学校もモミナハウスとして使いたい。もう一つは、二百四十名収容可能なホールを、二百四十名、促進、文化研究会をあつても、体育館を使つて行なつていたのを、これより分離開立して行なうことができた。若しくは、現校舎の使用年限が切れる三十四年後になるが、来春（60年）には基本針針は、きりすのでその時に母校の展覧のために援助をお願する、というところであつた。

河上先生

「宵待草」を歌う

昭和59年10月25日（土）午三時

於 岡山プラザホテル

多忙な日常の中で、今日は一日
楽しい日にしていただきたいとい
う藤井康宏会長、高富26のこ
ぼろ、つづいて、入船建事、事務局長
（高富28）の司会で議事に移り、
植田敬昭会長、高富22の議長で
会計報告、役員選出が行われ、
小河孝明氏、高富40、岡山医学部
が新幹生になられた。

来賓として、本部玉翠会から岡
野英代子（晩翠）、太田英雄、
高富26、今沢彰子、高富27の各副
会長のほか、母校から田中孝校長
、松野隆明先生など3名、そして、
この会の家族になる親、見えから
高松を初め、東京、京都、広島な
どからも、なつかしい顔を見せて
いた。NHK TVの中国地方ニュー
スで馴染みのある石野眞氏、高
富29が、挨拶に立たれたのにも
、この会ならではの親近感を感じ

新会社に宣言して、審かき
せるものであつた。

芦原

昭和十年十月十三日（土・午後一時）の晩、於新飯盛ビル12Fレストラン・パレオス。

幾田治玉梨会会長（高中、大義三）が初めて「出席になり、芦原重吉軍政村支部長（高中、大義三）を交えて歓談された。幾田会

感じさせる一と幕であった。（高28）」が挨拶して、浅田正夫氏（高28）が挨拶して、茂田仁氏（高28）が挨拶して、立川仁氏（高28）が挨拶して、ロスコリツビック開成会で日本チームが見えた困苦しを取りあげて、今日のような情報化、技術革新、国際化に時代にあわせて、我々日本人が毎日の生活で肩の力を抜いてリラックスして、いざという時に実力発揮できるように心がけねばならないのであるといふことが示された。

来賓として、幾田会長は同窓会

り、若草団体会通信制が秋式野郎大会に優勝したこと、聞事部の菊池君が中国へ遠征したことを話された。

岡野副会長の乾杯の音頭につづいて、映画「本州四国連横」を見ながら、一七七名の出席者の間で歓談がつづいた。

閉会の挨拶は、伴博副会長（高中中二）が健在について有意義なお話をなさつて締めくくられた。

田中清春・高松高校長からは、秋の叙勲者のうち同窓関係者の披露があり、つづいて母校校舎改築、働きや母校生徒の現状についてご報告があった。

毎年この会にご出席いただいている河上聖野先生は岡山ブラザホテルの近くに竣工した夢二記念館にちなんで「青待草」をめぐりに歌われ、参加者を喜ばせた。



玉翠会代議員名簿

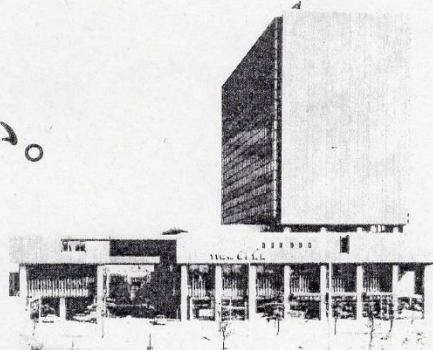
一六〇	柏原英	一〇	初倉政家、山下花子	三七	岡田康生、後藤貞徳、松尾久美子、三宅加子	三	岡田康生、後藤貞徳、松尾久美子、三宅加子
一五九	広瀬淳逸	一一	久保田千代、岡カヲ	三六	山内康生、三宅加子	二	新藤勝利、高岡忠三、小笠原ユキ子、小松子
一五八	松岡正樹、中西俊蔵	一二	大川キノ、広田タカ	三五	新藤勝利、高岡忠三、小笠原ユキ子、小松子	一	宮原ユキ子、小松子
一五七	大山勝、片桐新豊	一三	明石よし恵、浜野祝子	三四	三宮原ユキ子、小松子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一五六	井上謙二	一四	秋山智恵子、岡内一江	三三	三宮原ユキ子、小松子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一五五	福富哲二、川口親蔵	一五	須崎ヒデ	三二	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一五四	久本佐八郎、矢田茂夫	一六	井井枝	三一	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一五三	那須孝、堀利夫	一七	谷原代	三〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一五二	武田隆寛、三木忠雄	一八	小松トエ	二九	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一五一	荒木久太郎	一九	綾田絹江、松原利子	二八	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一五〇	河西源吉	二〇	二宮八重子、杉内武子	二七	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一四九	中野義彦	二一	富川幸子、藤沢孝子	二六	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一四八	佐藤英一、品治正己	二二	見勝子、大西光子	二五	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一四七	岡野敏雄、大山省三	二三	七國宗博子、池見光子	二四	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一四六	神辺隆之助、葛西重雄	二四	八河田スメ、鈴木タツエ	二三	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一四五	満岡文太郎、清公	二五	九山田綾子、杉山清子、平井登枝	二二	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一四四	村尾徳雄、松本清	二六	二〇藤村フミ子、太田光光	二一	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一四三	森慶太郎、松山和夫	二七	渡辺綾子	二〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一四二	川口正明、松崎岡	二八	香月フミ子、合田千代子	一九	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一四一	小野勝利、乾隆	二九	九尾善子、中村恵恵子	一八	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一四〇	北村恵吉、中沢泰	三〇	久米八重子、武下小夜子	一七	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一三九	香西善行、芳一徳	三一	二〇切谷子、伊藤孝子	一六	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一三八	永井登、高保一	三二	新名恵子、藤田幸子	一五	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一三七	渡辺正信、小西行三	三三	新名恵子、藤田幸子	一四	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一三六	木村正貞、平井英	三四	新名恵子、藤田幸子	一三	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一三五	江口友之、古川静夫	三五	新名恵子、藤田幸子	一二	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一三四	多田羅徳夫、成瀬裕	三六	新名恵子、藤田幸子	一一	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一三三	平井敏一、丸山修	三七	新名恵子、藤田幸子	一〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一三二	竹内正、津島照雄	三八	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一三一	町川弘、木村方正	三九	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一三〇	佐々木由之、下口智	四〇	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一二九	森正樹、村馬泰三	四一	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一二八	谷川啓一、渡辺典雄	四二	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一二七	堀家保男、増田正英	四三	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一二六	岡親隆、林政治郎、細川孝士	四四	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一二五	増田照夫、谷川一典	四五	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一二四	河野猛、山下哲弥	四六	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一二三	小橋以真、大西正純、佐藤嘉子、櫻村和子	四七	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一二二	藤嘉子、櫻村和子	四八	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一二一	冠野孝子、山下玲子	四九	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一二〇	人倉満、千葉孝正、高岡昭五	五〇	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一一九	小橋以真、大西正純、佐藤嘉子、櫻村和子	五一	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一一八	藤嘉子、櫻村和子	五二	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一一七	冠野孝子、山下玲子	五三	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一一六	人倉満、千葉孝正、高岡昭五	五四	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一一五	小橋以真、大西正純、佐藤嘉子、櫻村和子	五五	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一一四	藤嘉子、櫻村和子	五六	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一一三	冠野孝子、山下玲子	五七	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一一二	人倉満、千葉孝正、高岡昭五	五八	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一一一	小橋以真、大西正純、佐藤嘉子、櫻村和子	五九	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一一〇	藤嘉子、櫻村和子	六〇	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一〇九	冠野孝子、山下玲子	六一	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一〇八	人倉満、千葉孝正、高岡昭五	六二	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一〇七	小橋以真、大西正純、佐藤嘉子、櫻村和子	六三	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一〇六	藤嘉子、櫻村和子	六四	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一〇五	冠野孝子、山下玲子	六五	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一〇四	人倉満、千葉孝正、高岡昭五	六六	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一〇三	小橋以真、大西正純、佐藤嘉子、櫻村和子	六七	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一〇二	藤嘉子、櫻村和子	六八	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一〇一	冠野孝子、山下玲子	六九	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
一〇〇	人倉満、千葉孝正、高岡昭五	七〇	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
九九	小橋以真、大西正純、佐藤嘉子、櫻村和子	七一	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
九八	藤嘉子、櫻村和子	七二	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
九七	冠野孝子、山下玲子	七三	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
九六	人倉満、千葉孝正、高岡昭五	七四	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
九五	小橋以真、大西正純、佐藤嘉子、櫻村和子	七五	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
九四	藤嘉子、櫻村和子	七六	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
九三	冠野孝子、山下玲子	七七	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
九二	人倉満、千葉孝正、高岡昭五	七八	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
九一	小橋以真、大西正純、佐藤嘉子、櫻村和子	七九	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
九〇	藤嘉子、櫻村和子	八〇	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
八九	冠野孝子、山下玲子	八一	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
八八	人倉満、千葉孝正、高岡昭五	八二	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
八七	小橋以真、大西正純、佐藤嘉子、櫻村和子	八三	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
八六	藤嘉子、櫻村和子	八四	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
八五	冠野孝子、山下玲子	八五	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
八四	人倉満、千葉孝正、高岡昭五	八六	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
八三	小橋以真、大西正純、佐藤嘉子、櫻村和子	八七	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
八二	藤嘉子、櫻村和子	八八	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
八一	冠野孝子、山下玲子	八九	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
八〇	人倉満、千葉孝正、高岡昭五	九〇	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
七九	小橋以真、大西正純、佐藤嘉子、櫻村和子	九一	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
七八	藤嘉子、櫻村和子	九二	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
七七	冠野孝子、山下玲子	九三	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
七六	人倉満、千葉孝正、高岡昭五	九四	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
七五	小橋以真、大西正純、佐藤嘉子、櫻村和子	九五	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
七四	藤嘉子、櫻村和子	九六	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
七三	冠野孝子、山下玲子	九七	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
七二	人倉満、千葉孝正、高岡昭五	九八	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
七一	小橋以真、大西正純、佐藤嘉子、櫻村和子	九九	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
七〇	藤嘉子、櫻村和子	一〇〇	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
六九	冠野孝子、山下玲子	一〇一	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
六八	人倉満、千葉孝正、高岡昭五	一〇二	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
六七	小橋以真、大西正純、佐藤嘉子、櫻村和子	一〇三	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
六六	藤嘉子、櫻村和子	一〇四	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
六五	冠野孝子、山下玲子	一〇五	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
六四	人倉満、千葉孝正、高岡昭五	一〇六	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
六三	小橋以真、大西正純、佐藤嘉子、櫻村和子	一〇七	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
六二	藤嘉子、櫻村和子	一〇八	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
六一	冠野孝子、山下玲子	一〇九	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
六〇	人倉満、千葉孝正、高岡昭五	一〇〇	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
五九	小橋以真、大西正純、佐藤嘉子、櫻村和子	一〇一	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
五八	藤嘉子、櫻村和子	一〇二	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
五七	冠野孝子、山下玲子	一〇三	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
五六	人倉満、千葉孝正、高岡昭五	一〇四	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
五五	小橋以真、大西正純、佐藤嘉子、櫻村和子	一〇五	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
五四	藤嘉子、櫻村和子	一〇六	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
五三	冠野孝子、山下玲子	一〇七	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
五二	人倉満、千葉孝正、高岡昭五	一〇八	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
五一	小橋以真、大西正純、佐藤嘉子、櫻村和子	一〇九	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
四〇	藤嘉子、櫻村和子	一〇〇	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
三九	冠野孝子、山下玲子	一〇一	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子
三八	人倉満、千葉孝正、高岡昭五	一〇二	新名恵子、藤田幸子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子	〇	窪田朝則、真壁正明、西立野吉、吉市恵子

確かな明日へ

信頼のお手伝い。

銀行四百

■ 本店 高松市亀井町
 ■ 支店
 東京・新宿・青山・名古屋・大阪
 天満橋・九条・松屋町・神戸・明石
 姫路・岡山・清輝橋・玉野・水島
 児島・倉敷・福山・広島・福岡
 外四国一円
 ■ 海外事務所
 ニューヨーク



栄養学講義からマジックまで

晩翠会京阪神支部総会

新緑の5月20日、母校より内田教頭先生はじめ諸先生方をお招きして、晩翠会京阪神支部総会が、場所所は阪神百貨店グリンルームでした。

参加した二〇〇人にきやに、またこの機会に同窓の集いを見ました。京阪神支部も把握している在任会員だけで百人を超えていると聞きます。伝統の歴史をひしひしと

感じられる晩翠会ですが、いずれは発展の解消というところ、主要会に合流し、若い方たちに助中されたいと思います。いずれにしても、これまで立派にお働き下さいました。先望諸師に感謝して今しばらく頑張りますように誓い合いました。うら若き乙女の日、たゆみなく女の業を教えたいだいたいの母校。今もなお、その頃の良き師長と友

と懐かしい思い出を分かち合ひながらこのように過ごせすことを、心から感謝したのは私だけではないと思います。また、諸先輩が身をもって示して下さいました奉仕の姿を本手に努力して参りたいと思ひましたのも、出席された皆様の共通の思いであつたと存じます。最後に母校の益々のご発展を祈り、来春もまた後援者元気で会ひ出来まことをお願いしながら、盛会の幕を閉じることになりました。

能野 花子(昭10)
曾川登茂子(昭10)

昭和60年2月9日(土)午後6時、於・志多摩
高松の卒業生で行なわれていた阪出地区の同窓会を、高松の卒業生のうち男子を加えて、約百二十名を擁する会になって、四回めを迎えます。ますます親睦を深めてこの会を盛大なものにしてきたいという北條和雄会長(高松28回卒)の挨拶についで、太田英章玉翠会副会長(高松26)の香川からは、内田教頭が参会され、校舎改築への動きと後援育成に対する熱意が力強く語られた。
森田 一氏(高松27)は、舊のためか、お見えにならなかつた。参加者、約40名が、次々に立つて自己紹介とともにコマシヤルを述べていった。坂出地区という身近な生活圏もあって、ホッという親近感と笑いが絶えなかつた。最も移動の激しいのは百十四銀行の関係者であつた。出る者、迎える者、それぞれになつた。事

事の急延期になつて3年目の開催であり、又ホッ川川六は高松の中心に在つて足る便も至つて中々しいので御年輩の方もお出かけ易いと思ひます。当番の代議員、(昭15以後)一同張り切つて準備を進めて居りますか、お友達が誘ひ合はせて多数出席下さいませ。なお御案内は4月に入りましてから各年度の代議員様より差上げます。

原稿募集
同窓会の様子、
知らせて下さい

各地で同窓会が活発に持たれていて、玉翠会報編集では、同窓会の様子を伝える楽しい記事を持っていきます。写真を添えてお送り下さい。

玉翠会京阪神支部
(会長) 芦原義重
(事務局長) 曾川登茂子

岡山玉翠会
(会長) 藤井康宏
(事務局長) 入船健一

クリスタルな交流 —第2回東京玉翠会—



中村様・文化功労賞受賞

晩翠部会役員会

昭和60年の新春を祝つて1月7日に新装成つた広場の天勝で、理事、代議員等44名の集り恒例の懇親会を開きました。

寒い季節です。年々御年輩の方々の出席が減少する中で、本年は特に私達の先輩明治41年卒の中村岡子様をお招きしました。まず岡野会長様から同窓会の現況と校舎改築問題の報告に続き、中村貞子様の紹介がありました。中村貞子様は昨年秋、長年の茶道の研さん普及にはげました御功績がみとめられ、香川県文化功労賞を受けられました。このお呼び致しに、93歳の今もお元気で御参り下さる御指導を続けていらっしゃる由、私達も先生にあやかりたいものだと思ひました。

尚、当日その席上で昭和60年度の晩翠部会総会を5月25日(土)百十四銀行ホールで行う事に決定しました。この度の総会は90周年行事の急延期になつて3年目の開催であり、又ホッ川川六は高松の中心に在つて足る便も至つて中々しいので御年輩の方もお出かけ易いと思ひます。当番の代議員、(昭15以後)一同張り切つて準備を進めて居りますか、お友達が誘ひ合はせて多数出席下さいませ。なお御案内は4月に入りましてから各年度の代議員様より差上げます。

原稿募集
同窓会の様子、
知らせて下さい

各地で同窓会が活発に持たれていて、玉翠会報編集では、同窓会の様子を伝える楽しい記事を持っていきます。写真を添えてお送り下さい。

玉翠会京阪神支部
(会長) 芦原義重
(事務局長) 曾川登茂子

岡山玉翠会
(会長) 藤井康宏
(事務局長) 入船健一

昭和59年5月23日(土)午後5時17時30分
赤坂プリンスホテル
クリスタルパレス

本下案 郎氏をはじめとする昭和35年卒の幹事団によつて、約百名の参加者による第2回東京玉翠会が、新装成つたプリンスホテルのクリスタルの間で開催された。前年の母校創立90周年の盛会に際し、二百二十余名の参列者の中で旧知の方々と再会の機会を捉へ、母校の発展の大きさと社会生活の中で一番たいせつなのは人間関係であることを強調されて、同窓、同年によるこの会今後の発展とための協力をお願いとして要請された。

市岡隆秀氏(昭和35年卒)の司した。四糸女子短大の時井和枝先生を講師として、栄養学の講義も大変に有意義でございました。ついでマジックなどもあつて、参加した二〇〇人にきやに、またこの機会に同窓の集いを見ました。京阪神支部も把握している在任会員だけで百人を超えていると聞きます。伝統の歴史をひしひしと

感じられる晩翠会ですが、いずれは発展の解消というところ、主要会に合流し、若い方たちに助中されたいと思います。いずれにしても、これまで立派にお働き下さいました。先望諸師に感謝して今しばらく頑張りますように誓い合いました。うら若き乙女の日、たゆみなく女の業を教えたいだいたいの母校。今もなお、その頃の良き師長と友

と懐かしい思い出を分かち合ひながらこのように過ごせすことを、心から感謝したのは私だけではないと思います。また、諸先輩が身をもって示して下さいました奉仕の姿を本手に努力して参りたいと思ひましたのも、出席された皆様の共通の思いであつたと存じます。最後に母校の益々のご発展を祈り、来春もまた後援者元気で会ひ出来まことをお願いしながら、盛会の幕を閉じることになりました。

能野 花子(昭10)
曾川登茂子(昭10)

昭和60年2月9日(土)午後6時、於・志多摩
高松の卒業生で行なわれていた阪出地区の同窓会を、高松の卒業生のうち男子を加えて、約百二十名を擁する会になって、四回めを迎えます。ますます親睦を深めてこの会を盛大なものにしてきたいという北條和雄会長(高松28回卒)の挨拶についで、太田英章玉翠会副会長(高松26)の香川からは、内田教頭が参会され、校舎改築への動きと後援育成に対する熱意が力強く語られた。
森田 一氏(高松27)は、舊のためか、お見えにならなかつた。参加者、約40名が、次々に立つて自己紹介とともにコマシヤルを述べていった。坂出地区という身近な生活圏もあって、ホッという親近感と笑いが絶えなかつた。最も移動の激しいのは百十四銀行の関係者であつた。出る者、迎える者、それぞれになつた。事

事の急延期になつて3年目の開催であり、又ホッ川川六は高松の中心に在つて足る便も至つて中々しいので御年輩の方もお出かけ易いと思ひます。当番の代議員、(昭15以後)一同張り切つて準備を進めて居りますか、お友達が誘ひ合はせて多数出席下さいませ。なお御案内は4月に入りましてから各年度の代議員様より差上げます。

原稿募集
同窓会の様子、
知らせて下さい

各地で同窓会が活発に持たれていて、玉翠会報編集では、同窓会の様子を伝える楽しい記事を持っていきます。写真を添えてお送り下さい。

玉翠会京阪神支部
(会長) 芦原義重
(事務局長) 曾川登茂子

岡山玉翠会
(会長) 藤井康宏
(事務局長) 入船健一

四六 本條孝雄、浜中満男、佐々木信行、谷口孝、海老老清田親子、秋山寿行、野崎一也、國子孝、岩沢和夫、小野田英、脇口明子、山ノ内佳子、長崎光、鬼沢千秋、赤松由通、河西敏晴、植村恵子、川上由紀子

四七 ひよこ、高田純子、松村真喜子、早坂和、石川大祐、宮川雅彦、龜井理、漆原義典、三好勝樹、間島賢治、秋本仁、三宅実奈子、加藤恵子

四八 山下誠、田中隆子、吉田武士、芥田敦三、田中賢治、横山美登里、山下謙二、十河憲夫、香西良子、原貴美子、山崎隆重、小山雅也

四九 香西結仁、二木聖天、伊藤擴充、前田達彦、廣田光重、浜田明、馬場一誠、辺見孝、六車満、松原富士、三橋恵子、池田和真、三好久美、堀家敏久、久保薫、下河達雄、岡内正典、玉井英子

五〇 水口安則、平井克己、豊沢佳弘、大西葉子、中元直樹、折日由紀彦、川田行雄、川川康一、水野康成、中山易典、藤井哲郎、佐々木宏治、河西恵子、森田敦子、加藤真子

五一 小田郁子、三澤昌子、小西裕美、大塚和秀、川川誠一郎、廣瀬壮一、澤内喜郎、内藤久子、杉山和彦、多田和典、福田陽一、光藤伸人、光藤章二、三好鈴代、濱田和子、松崎淳一、河西直三郎、山田桃子、安倍恵子

五二 山口品嗣、多羽本留郎、石野恵三、大島由加子、阿部哲士、大串和之、藤井正人、中西恵、天野盛實、米田守安、三島義之、島貴代忠、岡崎明美、岡崎雅也、鈴木景子、森田美津子、藤原久子、高久美子、高橋真理子、大前信芳

五三 坂本博、中野健、谷口英貴、森本俊司、唐渡豊夫、佳代子、石木浩、渡波博司、矢田博己、村尾品子、大山康之、大久保正、業田規樹、矢野哲、宮本あかね、増田俊也、吉川正美、三枝道彦、吉田守英、糸田真也、細川和弘、大野弘

五四 藤井光一、大屋敷教子、三谷彰彦、熊沢教彦、小田曜紀、上井延知子、渋谷敬子、川原章三、吉川知己、國方義典、香川実、長尾正樹、長尾英、山地昭之、吉川安逸、宮内章孝、山野男、山上正、関谷利裕、松健健一、多田誠司、谷光祐子、山口智栄子、中村誠、小川智也、善勝光一、町田由美、黒田哲弘、岡崎仁一

五五 大野治郎、都築理香、大塚茂樹、國方義樹、大内品代、村尾聖彦、杉ノ内謙三、山田大介、大垣宏之、中西盛彦、佐野悦子、廣瀬昌

五六 近藤美有美、葛西真紀、藤田昭昭、綾田景史、間島士博、滝久子、佐々木英作、明石卓、小澤貴司、中田啓之、遠坂和生、垣谷恵美子、岡理美、高橋孝暢、谷口泰司

五七 平石綾子、中井孝子、熊沢真理子、田中英幹、横田和伸、菅浩伸、田村友二、神内健男、谷本雅人、遠藤智久、大内山基明、上枝宏和

五八 吉田浩史、森生、大内淑代、松山幸代、関谷美奈子、森岡健、萩森仁、佐々木聡

五九 津田千枝、工藤誠一、川崎由美子、笠原聡、高木たけすえ

通信制 池田隆、榎本孝男、久保肇、柳原春洋、木村誠、田中忠、青木千夏子、木村三、常義男

旧職男 香森幹雄、山下陽子、川西夕々子、岡田和夫、白川建貴、諏訪泰男、横井孝子、安倍ツタ江、三好暢子、真鍋敬和、大嶋治男、南繁文、額富英徳子

追加分 恒川実

年度不詳 古木俊雄、渡辺茂雄、真部和子

三四 井上哲、十河修二、小河樹廣、越前達司、高橋子寿子、真屋紀子